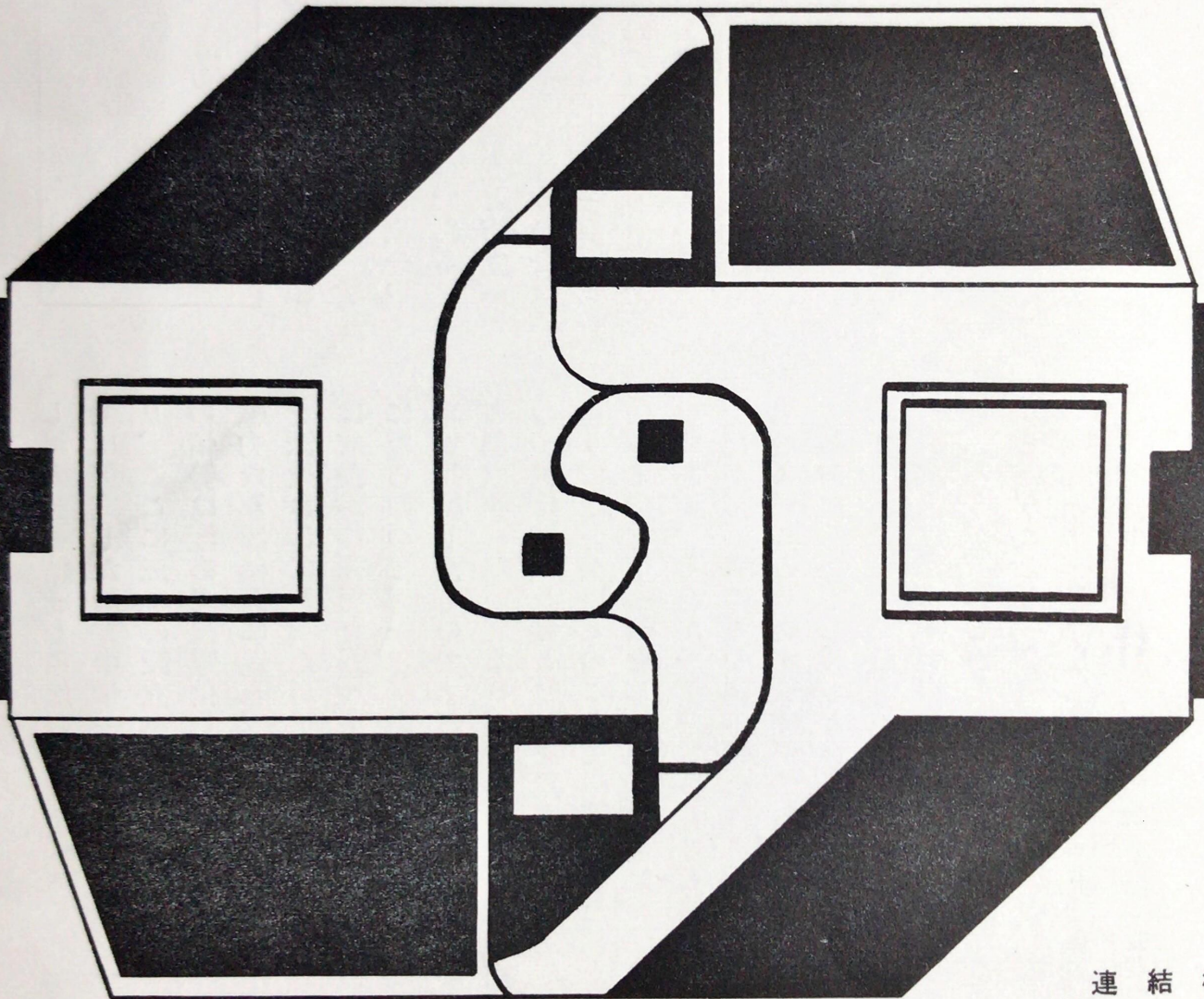


紫

笥



連結機

文京高校同窓会報

NO.11

創立当時の思い出

高知学園学園長 川島源司

今の都立文京高校は元は第三東京市立中学校と称し、昭和十五年の創立で私は初代校長の命を受けて、英語の奥園、数学の奥田（後に校長）、国語の河野、理科の川島等市立一中で同僚であった諸先生と共に創設の仕事に当たったのである。ここで一応書かねばならぬことは、市立三中の創立と市立一中が大正十三年に設立された、その源泉とが何れも他の公立と違った特異性をもっておったことである。市立一中は当時、市視学をしており後に一中の校長になられた成田千里先生の企劃がその基盤となったのに対し、市立三中は当時府会議員兼市会であった佐藤栄志氏の発起によるという、妙な対照的な原因によるものである。

大正十二年関東大震災により東京、横浜方面が未曾有の災害を受け、当時の中学校も大きな被害を受けた。成田先生は市内小学校長と提携して市立中学校創設が急務であることのムードを喚起し、市会議員にも働きかけ大正十三年三月の市会に提案して中学校二校、女学校一校の予算をとり、直ちに設立にかかったのである。一方佐藤栄志氏は私は一中在職中から懇意であったが昭和十四年、中学校増設の必要性を痛感

に校舎内外の清掃については仮校舎時代から徹底した習慣をつけようと、職員も共に拭き掃除の毎日であった。勿論私も生徒といっしょに雑布掛けまでやった。

校舎の敷地は市有地で養育院の古い建物があり、二ヶ年程は所謂施設の子供と共同生活で色々珍しい問題も起った。二年後に予算がとれて新建築に乗り出したが、何しろ世界大戦に突進の前夜で、物資の統制が始まり新校舎は木造さえも困難な時であった。幸い私の知人で建築業者に梅垣組というのがあり、その主人梅垣氏は極めて徳望家であり、山形県に広大な山林と数ヶ所に製材所を持たれた方があったので、市の建築課と協力して県外への移出が仲々やかましい際を数回山形に出かけ、やっとのことで必要な材料を獲得し頃調に建築に着手して第一期工事の約半分出来た頃、空襲のため一夜のうちに全く灰に化したのである。私は昭和二十年の春退職したが、その後数代の校長さんの御尽力により増築に増築を重ね、今日の立派な校舎を見るに至ったことは学園のため感謝に耐えないのである。

創立から二十五年を経過した今日、私も七十五才になったが、どうやら健康で郷里高知で高知学園の幼稚、小学、中学併せて三千五百人を相手に教育と経営に当っており、明年から大学を開設準備中である。この原稿を書きながら創立当時の学園の姿や、先生方のお顔、敷地内にあった神明の森や椎の大木などなつかしく大塚の模様が眼前にちらついている。

し婦人会を結成し市民の名署をもって市当局に陳情し三月市会に提案した所、中学一校の外に女学校一校も市会通過となり、ここに三中の設立を見るに至ったのである。当時、世界の情勢は極めて複雑化し、殊に日本においては陸軍を中心に強力な軍閥傾向に進み、従って中学校も相当前から配属将校を派遣されておったが軍事教練が猛烈であった。査閲の際には校長が指揮刀を振って全生徒の指揮に当らなければ総評甲にならぬので、一生懸命の生徒可愛さに私も大声をあげて全軍を指揮したものである。今考えるとおかしなことである。

創立間もない或る日、奥田先生が私の室に來られて「東京の子供は特に身体と精神を鍛う必要がある。毎朝裸体操をやるうでないか」とのことです早急始めた。上半身裸になり赤くなるまで乾布摩擦をした後、ワッショ、ワッショの掛声で駆歩である。それが一年中である。教練査閲は大抵寒い時であったが、最初にこの裸体操を行ってから査閲を受けたので評判のよいこと。必ず総評甲であった。どうかすると父兄から文句が出るかもしれないと思うたが案外で、反って父兄も共鳴してくれた。卒業生も強い印象に残っておるでしょう。

日本人は正常歩が出来ない。勿論日本の歩道が不完備な点もあるが、何とかして若い時から正しく歩く習慣をつけようということ、交通整理という意味から大塚駅と学校間は一列正常歩を實行した。あの狭い歩道でよくやったものである。他校の先生方も随分見に來られる程有名であった。同時

文京生について

後藤神戸

文京生気質というものが果してあるうか。無いこともないがそれよりも現代の社会的環境の中で普通化された現代高校生気質におきかえたほうがより適切かも知れぬ。毎年入学して來る生徒諸君に接する度に、年々ある傾向がはつきりして來る事を感じる。それはイエス・ノーの態度がはつきりしている事である。より分り易い言葉で言えばはつきりと割り切っている事である。これが中学から高校へと続く受験という人間不在の教育の中に成長して來た彼等の共通にもつ底辺なのである。更に目まぐるしく変っていくマスコミによって彼等の個性は一樣に類型化され、ものの考え方はひとしく外見だけの大人にされている。若い魂が微塵もなく燃え上るといふ事はほとんどみられないのである。老いた人間のように用心深いエネルギーの使い方を。しかし反面半ばマスプロ化した高校教育の在り方に対して、なかなか手厳しい批判を容赦なくする。そして失われようとしている人間関係の絆を、ホーム・ルームの討論の中で熱心に求めて來る。そして彼等自身が納得するまで討論する意欲を示すこともある。だが誰もがお互いの幸福を積極的に願いがら、究極は個人の問題に帰着する場合がほとんどである。そして三年という短い時間では友情という言葉を、たえず口にしながら、心に希求するだけで、真の友達をつくることが出来ない場合が多いのである。

すべてを自分にもっとも都合のよい解釈と理屈で規定していくような傾向がますます色濃くなって來たように思われる。そして或る場合

には教師の努力も誠実も理解されず、極論な場合には先生の世話になつておりません、というはつきりした態度には、教師自らの限界をつくづくと感じさせられる事もまれにはないではない。

だがこれは特殊のケースで、昔も今も変らぬものは素直で明かい雰囲気である。立入御法度の中庭の芝生に腰をおろして戯れている生徒に注意に及ぶと「先生、芝生と太陽は健康の為にいいですよ。」とおもむろに腰をあげるにいたっては思わず苦笑せざるを得ない。全く亭主をあやつる技術を心得えた女房のようなものである。表面上はよくカラカラと笑い、陰気くさい感傷はみじんもない。「思い込んだら命がけ」などという言葉は、彼等の前には軽くないなされて葬り去られてしまふのである。

文京祭にはエレキ演奏のあるところ何れも大入満員、アンコールの拍手がとどろく。そしてその後の演劇には水を引いたように講堂がガラんとした。最近の彼等には下手な同級生の演技に若い感傷のエネルギーを消耗するようことは無駄になつてゐるのである。瞬間々に体に感ずるリズム、そして後に何も残らぬものに或る時を過すことに逃避してゐると言うのは言い過ぎであらうか。生徒会の活動は相も変らず不活発で、受験という渦の中で一部の委員のきも入りで運営されている。

とに角何事にも干渉することを好まぬと同様に、人から干渉される事も決して好まない。そして指導という名の下に不必要に接触する教師の始意を素直に受けない。それを必要以上に排除しようとする積極的な意志も示さなければ、そうかといつてそれをそのまま受け取るのでもない。利口にそして静かに一応は頂戴しておいて、必ず他の面で構えを示す。その可否はとも角年々歳々その変りようには著しいものがある。

最近折々「伝統」という言葉が聞かれるようになった。それだけ内容的にも文京の歴史は年を重ねたのであらう。ささやかな彼等の意識

であるかも知れぬが、良識ある行動の裏付けとして、この言葉が彼等の新しい感覚で解釈されつつある事は事実である。彼等は一見小児の大人のように受けとれるが内面はなかなか健やかである。そして彼等ひとしく求めているもの何であらうか。それ人と人との誠実な結びつきである。

葉書を出して下さい 名簿を充実しましょう

名簿編集部

名簿の方も年を重ねる毎にだんだんと厚くなって来ます。今年度の名簿は厚さ約五センチ、二六七ページ昭和二〇年卒業生から今年度十八期生まで何と総勢六千五百名、一見立派に見えますが中をみれば最新の情報のクラスもあれば、十年一昔のままのものもあります。編集部としては大いに努力いたし、クラス幹事の中の有志の方には自費をもってハガキで確認してもらつたりしてご協力頂いたのですが、まだまだ不十分です。今年は葉書を同封いたしましたので是非ともご返送して下さい。私達の努力も返送が多い程報われ、苦勞も慰められます。町名変更その他名簿の変更の申出には必ず卒業の年、クラスを御記入下さい。なお返信用のハガキは七月から郵便料金が値上げになる為六月中に御投函下さるようには是非ともお願いします。

学校短信

○三六年来に体育の先生として着任された前沢(富沢)先生は四月、都立大付属高校へ転任されました。住所は逗子市逗子四の八の七で、海水浴に便利だそうです。
○事務室で奨学金などの関係でお世話下った東伸子先生は今度都立向丘高校へ御栄転されました。

早稲田大学の文京生

十七期C(四〇年)長島 良太

今年に入ってから学費学館問題のためトライキにはいった早稲田大学はいつ紛争の解決があるのかまだ見当もつきませんし、新学期の授業も予定通り行われるかどうかについて危ぶまれています。その中で今年度文京高校から早稲田大学に入学した新入生は、二十六名のほりでした。見事今年早稲田に合格された皆様方に心からお喜び申し上げます。

さて、文京高校から早稲田大学に進学された皆様には文京稲門会の会員になつていただくことになってゐます。この文京稲門会という組織は文京高校から早稲田大学に進んだ人達が集まって作つてゐるもので、文京出身の早大生の相井の交流をはかるために名簿を作つたり、新入生の歓迎会を行つたり、卒業生の歓迎会を行つたり、適当な時期に集まりお互いの連絡を保つように活動してゐます。又、受験期などには、文京生に対しての受験相談なども行つてゐます。文京高校から早稲田大学に入つた新入生が先輩がいなくて、同じ高校の出身者がどこにゐるのだろうか、何人位ゐるのだろうかということこの会のお

かげで解消されています。現在文京稲門会の会員は、百名以上になっていますが、この組織が出来てからまだ新しく、連絡も思うように行かぬため充分な活動が出来てゐるとは言えません。役員の方々も精力的に活動してゐてくれるので今後更に発展させるものと思つて、しかし、この会を更に発展させるためには文京高校から早稲田大学への進学者が増えなければなりませんし、現在、女子の方の進学者があまりかばしくありませんので一層の努力をお願いいたします。私達文京から早稲田に進んだ者は、お互いの交流という面でも早稲田大学に来てよかつたと言えるようにしたいと願つてゐますし、私達自身も文京生であるという点で強く結びつき、学生時代を有意義に過ごしたいと考えていますので、今後文京高校の発展を強く希望する次第です。

立教大学に学びて

十七期G(四十年)田村 裕美

どうしたわけかもう一年も経つてゐた。「どうしたわけか」と言つたのは事実それが本音だからです。一年間をこうこうこうして過しました、とはつきり言えないのは、もしかしら私だけではないかもしれませぬ。何となく懂れてゐた赤煉瓦の時計台やチャ

ベル、そういつたものもいつの間にかただそこにある、といった意味しか持たなくなつてゐたのです。アメリカのカレッジのような風景も一歩外に出れば喫茶店に事欠かない大抵の東京の大学と変りはありません。雑多な人間が集まつてゐるところにはさまざまな色が同居し、それはどこの大学だつて同じことなのです。

ところでついこの間、クリスマスチャンである一人の友人と、その店の発展にどれだけ貢献したかしのない喫茶店で話をしたことがありました。都の西北がやかましく、誰もが「キキ、キキ」と叫んでゐる頃で当然はなしはそちらの方へ向いてゆきました。

「キリスト教の真理に基いて学究するところが立教が存在する意義を見出してゐる。」とその人は言いました。入学以来「神と国のために建設された」とかいう立教の意義などすっかり忘れ去つてゐた私には、どうもその時から耳がガンガン鳴りはじめたような気がして落ち着かないのです。この耳鳴りは自分の間やみそうもありませんが、その原因がつかめないだけ目下大いに焦つており、焦つたまままで卒業(運よくゆけば)するのではないかと、気が気ではないこのごろです。

(表紙題字は現校長 丸岡真幸先生
カットは41年丁卒 寺田有恒)

二年前の九号でクラブ今昔を特集し、生物、書道、排球、野球部に登場をねがいましたが、今年は図書、地歴し卓球部にOB会の現状をよせてもらいました。

文京図書OB会

十五期(38年卒) 石井 秀太

もう三年も前になってしまったが……。在学中に、図書委員の肩書きを持って、とかくにワサワサわいでいた連中が卒業することになって、『これだけ、楽しく話の出来る機会が、卒業と同時に失なわれてしまうのではモッタイナイ』……ということ、

「ジャア」と出来上ったのがこの会である。人間と云って、やはり翼を寄せ合ってピーチクパーチクやる事は、それでなくともギスギス化しつつある世の中で、けっして無意味なことではない。気軽に「オイッ」と呼びあえる時、そこには、目には見えなくとも、形には表われなくとも、人間にとって欠く事の出来ぬ何かが存在する。

そして、幸福なことに、私達には在学中こそ、顔を合わせなかつた人達の間に、も

と図書委員という、何か温い心のつながりがあつたし、今も、それは在校生との間に、やっぱり残っている。

西岡先生を、強引に拝み倒して、校門の側に立っている樹から、『しいのき』という立派な名までいただき、今では、五十名を越える会員と共に、隔月置きに『OBニュース』を発行して、互いの消息を確かめ合い、年五、六回の総会及び例会で、友情その他をぶつけ合い、春、秋二回発行の機関紙的文集で、意見を交換し合い、いらぬ事を言い合

い、書き合う。

豊かな緑陰と、心からの慰いと、しいの木の下に

力をあわせて、

集いの喜びを……

機関紙『しいのき』の冠頭からの抜粋である。文京を卒業して、今では、会員も、勤め人から予備校生まで、種々雑多、そして、今後も、まだまだ文京のある限り増えて来る事だろう。可能性も、まだまだあらずもれていることだろう。サアテ、ボチボチ、次のニュース発行に着手せよ。

卓球部OB会

十七期(40年卒) 小沢 純一

同窓生の皆さん、卒業後うまくやってますか。我々卓球部四〇年卒業生、男子の部員は男子クラスの者が多かったせいか、男子間の団結は大変強いものでした。しかしそのためか、入学当時は男女部員が互に話し合うこともなく、部員が分裂してしまいました。その後二年程たつうちに、いろいろな働きかけで部内が統一され、意見の交換がもたれるようになりまし。卒業後、苦楽を共にしたこの仲間と永久に離れ離れになってしまうのは大変残念なことなのでおのずと我々の間に、この四面楚歌の世にあって、互に腹を割って話し合えるOB会開設の気運が高まりました。

活動は同じ年度の者だけなので他のクラブの場合と異なるとは思いますが、我々仕事にしろ、娯楽にしろとかく室内で過ごしがちなので、OB会を催すなら太陽のもとで良い空気を吸うようにと、今まで二回(定期的に四月と九月)ともハイキング形式で行いました。目的地に赴いては、合唱、なわとび、フォ

地歴部OB会

十五期(38年卒) 小川 誠

学術会議が政府の科学振興策に社会科学、人文科学が除かれようとしていることに抗議した。——科学とは眼を驚かし、腹に感えるもので進歩を促すものと定義しているのかそれとも人間自体は非科学的なものと考えているのかもしれない。高校生でも自然科学や文学には大いに魅力を感じて、これに熱中し、将来これを学ばんとするものは多勢いる。ところが社会科学に至ってはなかなか扱いにくい。自然だけでなく、人間、それも個人ではなくその集りなのだからである。そして稀にいと純真過ぎ、情熱的、行動的で少々オーパー・ヒートしてしまう。そこで暖き心とクールな頭脳というのが適切とあいなる。そうなるると少々魅力に欠けるらしい。元々それほど多くない地歴部員が近年は更に少ない。だがしかしこの地歴部の卒業生の集りである地歴部OB会は十八年もの世代を包含し、その緊密なる結束を保っている。これは文京の文科系サークルではなかなかないことであると

クダンス等をして、一日童心に帰った気持ちで楽しく過ごしました。特に、円座を組んで各自が持つて来た弁当を回して、少しづつ飲みながらする話の面白さ、食べる弁当のうまさ、他にたとえようもありません。とにかく親和ムードでいっぱいです。出席人員ですが男子十人女子七人程です。今では決った時期を過ぎても、幹事が計画しないと、「待ち切れないから早くやってくれ」という声が聞かれ幹事一同喜しい悲鳴をあげてます。

さて今後の問題ですが、この喜びを我々だけのものにせず、この会を後輩はもちろん先輩の方々にも参加していただけるようなものにし、卓球部OB会を発展させたいと思います。我々幹事今年大学に入ったばかりなので具体的案は決まっています。今後卓球部OBの皆様OB会発展のために御協力お願い致します。

誇って良いと思う。これも現役時代のパツとしないが地道なる研究活動に依るものであって、いわば地歴部スピリットでも言ふべきか、OB会はこのような連体意識の上に成り立っているがけっして郷愁にほんやり浸っているなまけもので勝手な集団ではない。OB会はいかにあるべきか、現役とOB会はどのようなにあるべきかと世代を超えて真剣に話される。そしてOB会の定期会合の他に幹事や有志だけでなく、OB会員のより沢山が現役と交流する機会が持たれる。夏期恒例の研究行には要請があれば諸用引受という具合である。しかも現役の域に入らずはもちろんである。相当に手前味噌を並べ過ぎたがむろん理想的であると言えぬものではない、むしろ欠点のほうが多いであろうし文京ムードが浸透している。……情熱不足、活動力不足、それでも地歴に在るとなにもなく卒業という点は無免がれる。そこで同窓会諸氏にお薦めしたい。諸兄の後輩が地歴に入部することを勧めよう。

同窓会委員会より

▲同期会推進▼

十六期(39年卒) 寺尾 邦夫

「高校時代が一番思い出に残る時」と、多くの人は言います。おそらくは、そうなので、少年時代から受けついで来た、何ものをも素直に自分のものとして受け留めるといふ心情をもって、新たに開かれ始めた世界へ歎びと苦悩の眼差しを向けるからでしょう。自分の隣に席する人も悩んでいました。学窓を共にした仲間、皆一様に各々の悩みを持ち、歎び、涙したので。

三年間の短かかった学園を去って、何年或いは何十年かの歳月を数えることが出来るでしょう。しかし、時が凡てを流し去るように見えても、高校時代の日々は鮮烈な刻印を残しています。あの時我々は、学業にスポーツに共に手を取って助け合っていました。そして、まだ目に見えぬながらも、迫り来る未来への漠然とした不安と憧れを抱いていました。

卒業して何年か後にはそれらの幾つかかを実際に体験することを余儀なくされたのです。数々の起伏を経て静かな思いに耽る時、

忙しい生活の中で忘れていた仲間の顔が浮かび、恩師の姿が想い出されます。

「あいつは何うしているんだろう」という気持は、誰にでもあるに違いありません。それは単なる懐古趣味ではなく、純粹に仲間のことを思い遣る心から来ています。時には、お互がただ会うことによって、自分の未来への展望が開けて来ることもあります。

そして、そここそ同窓会と同期会の意味と目的があると思います。同窓会を縦の軸とするならば、同期会は横の軸となるでしょう。幸いにして同窓会は、諸先輩等の力を借しまぬ努力によって維持されて来ています。しかし、その中において同期会はともすれば忘れられがちです。各年度に所属する同窓会幹事の一層の奮起が望まれるとともに、幹事に携わらない人達にも率先して同期会を開催されることをお願いいたします。

▲一年をふりかえって▼

— 同窓会館建設 —

七期(30年卒) 皆葉 賢

同窓会館建設に向けて四十年度には、次のことを行った。

- (一)他校会館の調査
- (二)委員会々合二回

▲調査結果の報告と検討▼

(一)母校々長と会合
校地内に建築する場合と校舎建築に便乗して建築する場合

これらの経過から結論として
(一)地価高騰の折柄、経済面から考えるならば、校地を借用すべきであること、但し借地料は無料であるが、建築された物件は都の所存となるマイナスマもある。つまり、使用する場合管理権が都にあるため若干の不便もあるということ。校舎建築に便乗する場合は違法になると、いうことで不可能である、土地の問題……

(二)資金はどうか。現在まで、毎年収の半分を貯えてきたが、雀の涙である。しかし当初の貯え始めた頃の夢念願を持つは決して捨てていない、集金のための経費のかららない方法としては在校生諸君の入会金の値上げであるが、これも限界がある。が卒業生を呼んで、大学案内、会社案内を毎年催して、入会してくる在校生諸君の協力を願っている。資金の問題いづれにしても、会員諸兄弟の絶大なる協力を願わなければ、夢も消える。勿論、建設委員会も今後検討すべき諸問題をかかえている(一)どのようにして協力金「寄金」を訴えるべきか。

▲連絡のための郵便代も値上げするといふ。昨今経費の面も考えねばならぬ▼

願わくば、会員一人一人の寄附よりは、小口でも全会員一人一人の寄附で夢を叶えたい。また五月十九日に会合を持つ予定であるが、会員諸兄氏の「良い智慧」と「絶大な協力」を期待しながら、検討、議論をすることになる。

▲進路指導▼

— 女子進学就職者に望む —

十六期(39年卒) 八重樫 健

ここ数年來の傾向として、進学就職懇談会に於ける女子出席者の減少が見られる。殊により多くの出席者を望みたい就職懇談会に於いて一層強く現われている。この現状を打開する種々の方策を捻出してみたところで、結局は卒業生各人の意識の高揚を持たねばならないのは自明である。

それにつけても、我々が現在まで生活し、思考し続け得た基盤は一体、何処に在ったのであろうか? 先人達の生活、殊に同じ様な環境に育った身近な人達の生活、意見に拠る所、大であったのではないだろうか?

斯様に考える時、我々常識を持ち、歴史の内に、社会の中に生きる者の、後代に対する

或る義務感が湧き出するのは当然であろう。利己主義、更に功利主義というものも結局は、博愛主義など同一の基盤に立っているという事を良く理解されて、今後は多くの先輩達が、進学就職懇談会に参加される事を期待して止まないものである。

文京祭

例年母校において行われてます、体育・文化祭の予定は次の通り。
文化祭……十月八日(土)九日(日)
体育祭……十月十一日(火)
多数のご参加をお待ちします。

▲会報編集▼

OBの皆さん既に御承知の如く、七月から郵便料金値上りのため、今年度の会報は早々と送る事になりました。

いつもながら費用の点その他頁数に制限され、編集に苦勞しています。今後同窓会の会報としてOB諸兄の御意見御希望をお待ちしています。願わくばこの同窓会会報が会員を結ぶ連絡機のようなものであればと思います。最後にこの会報のため、寄稿して下さい方々に心からお礼申し上げます。

会計報告

昭和40年4月1日～41年3月31日の間
会計は次の通りです

昭和41年3月31日

会長	波 辺 剛 章 弘
会計	西 岡 静 夫
監査の上	正確であることを認証します
会計監査	静 谷 山 保 夫 士
1. 財産目録(41.3.31)	
イ、貸付信託	770,000円
ロ、現金	455,442円
ハ、物品	①両開き書庫 ②ハガキ印刷機 ③書類入れ ④手提金庫 ⑤ヤスリ板

2. 収支

(収入)	876,289円
広告寄付	14,774円
利子	56,523円
総入金	48,400円
繰入金	567,600円
貸付	88,992円
貸付	100,000円
(支出)	420,847円
報簿信営会事	103,712円
会名通運	150,350円
信営会事	12,145円
運	17,550円
行	122,530円
	14,560円

昭和41年大学進学状況		現	浪	進 学 校	現 役	浪 人	合 計
男	女	男	女				
〔国立〕							
東大	(文3)	1	1	立大	(政経)	1	
東工大	(社)	2	1		(理工)	16	
東一橋大	(理)	1	1		(生産工)	7	
千葉大	(体)	1	1		(二工)	4	
	(園芸)	1	1		(法)	2	
	(教育)	1	1		(農)	1	
電通大	語大	1	1		(芸)	1	
学芸大	大	1	1		(文)	12	
農工大	外大	1	1		(文)	6	
東工大	語大	1	1		(文)	4	
埼玉大	(理)	1	1		(文)	3	
	(教養)	1	1		(文)	5	
	(教育)	1	1		(文)	2	
山梨大	(工)	1	1		(文)	2	
群馬大	(工)	1	1		(文)	2	
	(医)	1	1		(文)	2	
信州大	(工)	1	1		(文)	2	
金沢大	(法)	1	1		(文)	2	
北大	(文)	1	1		(文)	2	
帯広畜産大	(文)	1	1		(文)	2	
〔公立〕							
都立大	(工)	3	1		(文)	7	
	(理)	2	1		(文)	2	
	(法)	2	1		(文)	2	
横浜市	(商)	2	1		(文)	2	
	(文)	1	1		(文)	2	
高崎経済大	(文)	1	1		(文)	2	
三重県立水産大	(文)	1	1		(文)	2	
〔私立〕							
早大	(政経)	25	16		(文)	11	
	(法)	8	5		(文)	4	
	(商)	6	3		(文)	7	
	(教育)	9	3		(文)	1	
	(文)	1	1		(文)	1	
	(理工)	1	1		(文)	1	
慶大	(法)	10	12		(文)	1	
	(文)	3	5		(文)	3	
	(文)	4	4		(文)	5	
	(工)	1	1		(文)	2	
	(商)	1	1		(文)	2	
明大	(商)	14	2		(文)	1	
	(法)	6	2		(文)	3	
	(経営)	2	2		(文)	2	
	(文)	2	1		(文)	2	
	(工)	1	1		(文)	2	
	(農)	1	1		(文)	2	

〔1名合格〕

東海大 歯科大
 東京大 理工大
 独協大 工大
 芝浦大 工大
 東共立 女大
 武蔵大 女大
 日本女大
 立命館大
 同志社大
 関西大
 星大
 日本歯科大
 慈恵医大
 東邦大
 杏林大
 東京家政大
 東大 医大
 東大 女大
 鶴見大
 立正大

〔短大〕

東京女子大 (文)
 美大 (文)
 山学院 (文)
 跡見 (文)
 学習院 (文)
 文化女子短大
 立川女子短大
 都立商科短大
 共立女子短大
 成城大 (文)
 昭和女子大 (家)
 白百合 (文)
 山脇大 学院
 文京女学館 学院
 都立高等師範 学院
 竹早 師範 学院
 桑沢 師範 学院
 東京医科歯科 学院
 衛生技術科 学院
 YWC A (教養)
 お茶の水 教員養成
 アジア アフリカ 語
 学院 養成所
 衆議院 養成所
 東京栄養食糧 学校
 東京教育 専門学校

	現役	浪人	合計
国公立大	33	32	65
私立大	197	55	252
短大	28		28
各種学校	14		14

復職して 照屋 至 傑

ながい闘病生活もやっと終わり、今浦島のように、なつかしい学校へもどって参りました。三か年の空白があったので、周囲の様子がすっかり変わり、あの子の生徒は全部卒業してしまつて、今は声をかけてくれる生徒もおりません。昨年の秋のことでした。病氣もよくなり、時々登校してもよい状態になったので、文京祭を見に行きました。校門付近の受付で「父兄ですか、それとも一般ですか」ときかれて返事に窮しているところを、通りすがりの井出生先生に助けられて職員室まで連れていかれました。また、各部の展示会場を見て巡っていると、数学部の説明係の生徒が「わかりましたか、もう少し詳しく説明しましょうか」と、どうも私が本校の教師であることを知らないらしい様子なので「わたくしは本校の数字の教師だ。しっかりやれよ」といおうと思ったがいよいよ出しくなつて、つい止めてしまいました。学校の授業に出てから一か月になりますが、時々よそへ行つたような錯覚におちいることがあります。いつになったら、三年前と今の生活を結び合わせる事ができるだろうかと心細くなる事があります。しかし、周囲の方々の思いやりと励ましによって、一日一日と普通のコンディションに戻りつつあるようです。

人間の寿命は二十年以上延びたそうです。「三十にして立つ」ということは「五十にして立つ」になつたと思ひ、せつかく生命を助けてもらったから、そろそろ志を立て直そうかと思つております。もちろん体を第一に考へてのことですが。

四十一年就職状況

- A組 (西川進先生) 稲垣 良子 (商工中金)
- 鈴木由美子 (エーザイ) 熊坂 純子 (三菱商事)
- C組 (平田邦男先生) 田辺 久子 (富士銀行)
- 穴原 弘充 (日興証券) 長堀 紀子 (第一生命)
- 西川 秀美 (三菱銀行) 林 咲子 (地方公務員)
- D組 (宇都宮博先生) 山口 順子 (日本鉄道建設公団)
- 大栗 宏之 (服部時計店) 後藤 泰子 (富国生命)
- 大山 俊男 (森永製菓) 堀田 策恵 (日建設計)
- 森塚美和子 (日銀) 松田 夏子 (住友商事)
- E組 (築山博先生) 飯高 正行 (東電)
- 郷田 晋也 (衆議院速記) 小笠原弘美 (日本パルプ)
- 小須賀 洋 (農林省国土地理院) 倉沢 純子 (日興証券)
- 小泉 真理 (日本製粉) 長崎 弘子 (電気化学)
- 佐藤 悦子 (都庁) 小島 康正 (農林中金)
- 杉山みよ子 (博報堂) J組 (木村治郎先生)
- 松谷 敏子 (都庁) 相原香代子 (日商)
- F組 (湯本祐之先生) 伊藤 貞子 (三菱信託銀行)
- 青木美代子 (三菱銀行) 遠藤ひろ子 (勸銀)
- 麻田美知子 (三井銀行) 岡野 克美 (住友金庫)
- 浅野 憲子 (農林省) 落合美智子 (日本交通社)
- 石坂 敏子 (日本勧業銀行) 川崎可南子 (商工組合中金)
- 伊能 葉子 (三菱信託銀行) 倉茂 浮子 (東電)
- 金山美智子 (三菱信託銀行) 駒木 峰子 (八幡エコンスチ)
- 岸 文子 (商工中金) 小宮 道子 (国際見本市)
- 鈴木都多恵 (三菱信託銀行) 塚田かよ子 (野村投資信託)
- 山崎 幸子 (日商) 長島 幸子 (住友銀行)
- 吉田登美子 (三菱信託) G組 (磯野幸先生)
- 秋山 和子 (三菱商事)

同窓会の運営はクラスから出ている幹事一

名ないし二名を中心として年に一回幹事会を五月前後に開き、その年度の運営基本方針をさめています。

今年からは、前年度の役員に新らしく入会した幹事を希望の部に入ってもらい、三

同 窓 会 役 員

年間は大いに活動してもらおう。三年たてば

その役は後輩の活動を見守って指導にあたってもらうという役員システムをとることに決まりました。三年たっても大いに活動して頂ける方は勿論のこと大いに頂くことに変わりはありません。

《会 長》

渡辺 剛章(20-A, 811-2989 弁 護 士)

《副会長》

湖山 聖道(20=A, 956-3311 内科医)

定方 昭夫(38D, 911-3125 都立大)

長尾 良太(40C, 953-1076 早大商)

八重樫 健(39G, 907-0111 内134 東工大)

寺尾 邦夫(39H, 立教大 社会)

石崎 隆夫(39F, 930-7853 法大)

赤坂 正雄(20-C, 0498-31-2925 文京高)

《会館建設》 湖山聖道

辻 正和(20=A, 821-1343 不動産業)

皆 葉賢(30A, 901-4801 洋服裁断業)

榎本 幸三(27E, 二葉紙業 265-6151)

静谷 晴夫(23B, 982-9856 賛育会産婦人科医)

荒井 侃一(40C, 901-6670)

堀田 正陵(41, B 埼玉県足立郡大和新倉 3884)

勝倉 孝治(41F, 933-5925 立教)

徳河 修(41I, 971-6220)

《会 報》 定方昭夫

長島 敏夫(40A, 文京区御殿町127)

古川 幸子(40E, 板橋区長後町2-20)

奥山由起子(40A, 安田火災 530-2151)

瀬尾 淳(41J, 962-3868 早稲田)

坂 (41E, 943-2800 国土地理院)

《名 簿》 長尾丸太 西岡 弘

杉山 弘(34C, 960-3715 印刷業)

斉藤南海子(38D, 919-2643 博報堂)

宇木 邦彦(37B, 952-1726 上智 外国語)

青木 邦子(41E, 北区中里町454 国鉄アパート122 青山女子短大)

荒井久美子(41F, 900-3723 明大短)

佐野 恒男(41C, 971-0357)

《進路指導》 八重樫健

坪井 一弘(40D, 981-2738 都立大)

今井 和子(40D, 942-1852 明大)

岡野 克美(41J, 913-0721 住友金属)

臼井 優(41A, 941-3269 上智)

《同期会, クラス会推進》 寺尾邦夫

松林 忠成(39B, 811-8890 慶成大)

小林 順一(39B, 901-2352 外語大)

小林 義弘(39C, 957-3001 早大)

鈴木とし子(39A, 971-1814 日本生命)

松井 好彦(41G, 941-5758)

勝倉 孝治(41F, 933-5925 立教)

徳河 修(41I, 971-6220)

松島美紗子(39E, 983-4053 共立大)

新巻 映子(39C, 821-4020 フジテレビ)

《ダンス》 石崎隆夫

山畑田鶴子(38F, U4297-2460 富士電機)

山田 宣直(41C, 960-1481 日大)

鈴木 昌恵(41I, 946-6483 昭和女子大)

後藤伝太郎(41, 943-3017)

《総務》 赤坂正雄 西岡弘 同期会推進

鈴木 英彦(41H, 983-2457 法政)

高橋 健史(41B, 豊島区長崎437-4 東京歯科)

吉田 進(41A, 豊島区巣鴨7-1646)

《会計》

西岡 弘(20-C, 811-6311 文京高)

《会計監査》 静谷晴夫

光山 保士(30C, 811-1459 両国高校)

《書記》 赤坂正雄

文京高校同窓会報

紫笥 〈第11号〉

昭和41年6月10日発行

発行 渡辺剛章

編集 定方昭夫他

発行所 文京高校同窓会

東京都豊島区西巣鴨3の853

電話 (981) 8231

印刷 東洋印刷株式会社